

授業科目	社会的養護Ⅱ				単位	1		
履修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE21603J		
開講年次	3	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP2-2 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	山根 正夫							
授業概要	近年の社会的養護を取り巻く環境の変化に応じた方向性の中から、社会的養護Ⅰについての理解を基盤として更に子どもの権利擁護を基礎においた実際の社会的養護の内容について学びます。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。</li> <li>2 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>3 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</li> <li>4 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>5 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	50	50	0	100	
知識・理解 (DP1-1)			0		10		10	
知識・理解 (DP1-2)			0		10		10	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			0	5	10		15	
思考・判断 (DP2-2)				5	5		10	
関心・意欲 (DP3-1)				5	10		15	
関心・意欲 (DP3-2)				5	5		10	
態度(DP4-1)				10			10	
態度(DP4-2)				5			5	
態度 (DP4-3)				5			5	
技能・表現 (DP5-1)				5			5	
技能・表現 (DP5-2)				5			5	
技能・表現 (DP5-3)				0			0	
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
現代の社会的養護の実際について理解し、その内容について十分に説明できる。				現代の社会的養護の実践について基礎的な知識を有する。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	子どもの権利擁護： 子どもの権利擁護の生成過程とその内容、専門職の倫理について。	演習(以下同様)	提示された課題について、予習の上、プレゼンテーション・討議などなどの共同学習を通して理解を深める(以下同様)。	60分(以下同様)
2	社会的養護における子どもの理解： 社会的養護を必要としている子どもたちの援助に必要な基本的な発達理解について。			
3	社会的養護の内容1： 日常生活支援とは何でありまたどうあるべきか、事例等を用いて検討する。			
4	社会的養護の内容2： 心理的支援とは何でありまたどうあるべきかについて、事例等を用いて検討する。			
5	社会的養護の内容3： 自立支援とは何でありまたどうあるべきかについて事例等を用いて検討する。			
6	施設養護の特性と実際1： 社会的養護を担う施設(乳児院・児童養護施設)での支援について事例等を用いてその実際を検討する。			
7	施設養護の実際2： 社会的養護を担う施設(児童心理治療施設・児童自立支援施設等)での支援について事例を用いてその実際を検討する。			
8	家庭養護の特性および実際： 里親等を中心とした家庭養護での支援について事例等を用いてその実際を検討する。			
9	個別支援計画の作成： 社会的養護を必要とする子どもの個別援助計画について策定の方法について検討する。			
10	記録および自己評価： 社会的養護に係る記録の在り方、及び社会的養護を提供する施設などにおける自己評価について実際例などを検討する。			
11	社会的養護における専門性： 専門職としての倫理・知識・技術・実践について検討する。			
12	社会的養護とソーシャルワーク： 社会的養護に係るソーシャルワークの知識・技術とその応用について検討する。			
13	家族支援： 社会的養護を必要とする子どもとその家族の支援の在り方、その方法について検討する。			
14	今後の社会的養護の課題と展望： 支援の在り方について学習した内容と今後の課題と展望について検討する。			
15	全体のまとめ： 授業全体をとおして全体をまとめ疑問点や課題等について討議する。			
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	2年次で開講されている児童家庭福祉と社会的養護Ⅰで学習した内容について理解しておくこと。プレゼンテーションにあたっては、共同学習、相互のコミュニケーションを意識できること。			
テキスト	小木曾他編著「よくわかる社会的養護Ⅱ」 ミネルヴァ書房 2022(予定)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	自立支援計画研究会編「子ども家族への支援計画をたてるために」(2005)日本児童福祉協会			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	インターネットによる情報だけでなく、文献や研究論文などにもアクセスして理解を深めてください。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	基本的には各課題についてのプレゼンテーションの内容及び提出物で到達度を評価します。			

